北海道中央部、夕張山地、礼振山南方における鍾乳洞の発見
－鍾乳洞の構造と探査戦略について－

石毛 康介 (ISHIGE, Kosuke)・木富 正裕 (KITOMI, Masahiro)・金森 ちひろ (KANAMORI, Chihiro)・
山口 大翔 (YAMAGUCHI, Hiroto)・阿部 瞬 (ABE, Syun)・東河 竜平 (SOKUKAWA, Ryuhei)
北大探検部所属　北海道在住

1. はじめに

1960 年代以降、学生探検部や有志団体による鍾乳洞探査によって、国内で多くの未踏鍾乳洞が発見された（例えば、霧穴：柏木ほか，2003；瀧谷洞：1989 年にパイオニアケイビングクラブによって発見)。また、既知の鍾乳洞についても支洞の探査によって総延長を大幅に更新した報告がなされた (例えば、安家洞：Japan Cavers Club II(現 : 日本洞穴探検協会) の 90 年代の成果)。このような探検活動により、本州以南の鍾乳洞の全体像は明らかにされつつある。

一方、北海道において確認されている鍾乳洞は少なく、総延長 100m 以上の鍾乳洞は 4 本だけである (石毛 , 2014；石毛ほか，準備中)。しかしながら、北海道内には鍾乳洞を胎児しうる石灰岩は広く分布しており、未発見の鍾乳洞が数多く存在する可能性がある。

このようなことから、我々北大探検部は北海道を中心に鍾乳洞探査を行っている。これまでの成果として、2006 年に道内最長となる北海洞 (479.5m；長谷川ほか , 2008) を、2014 年に新洞窟 (34.5m；石毛 , 2014) を発見した。しかし、これらの鍾乳洞はいずれも北海道南部の北斗市に分布しており、北海道全体で見た場合、他の地域の探査はほとんど進展していないのが現状である。

北海道中央部の日高山脈～夕張山地は現在まで鍾乳洞の存在が報告されていない “鍾乳洞空白地域” である。同地域には数千万 t クラスの比較的規模の大きい石灰岩が点在し、古文書の記録や地元住民の間で洞窟の存在が噂されていることから、アクセス性がやや悪いことを考慮しても、優先度の高い探査地域と判断される (石毛 , 2014)。

このようなことから、北大探検部は北海道で未詳鍾乳洞を発見することを目的とし、まず夕張山地を探査対象に設定した。その結果、礼振山南方において新たに 2 本の未詳鍾乳洞を発見したのでここに報告する。

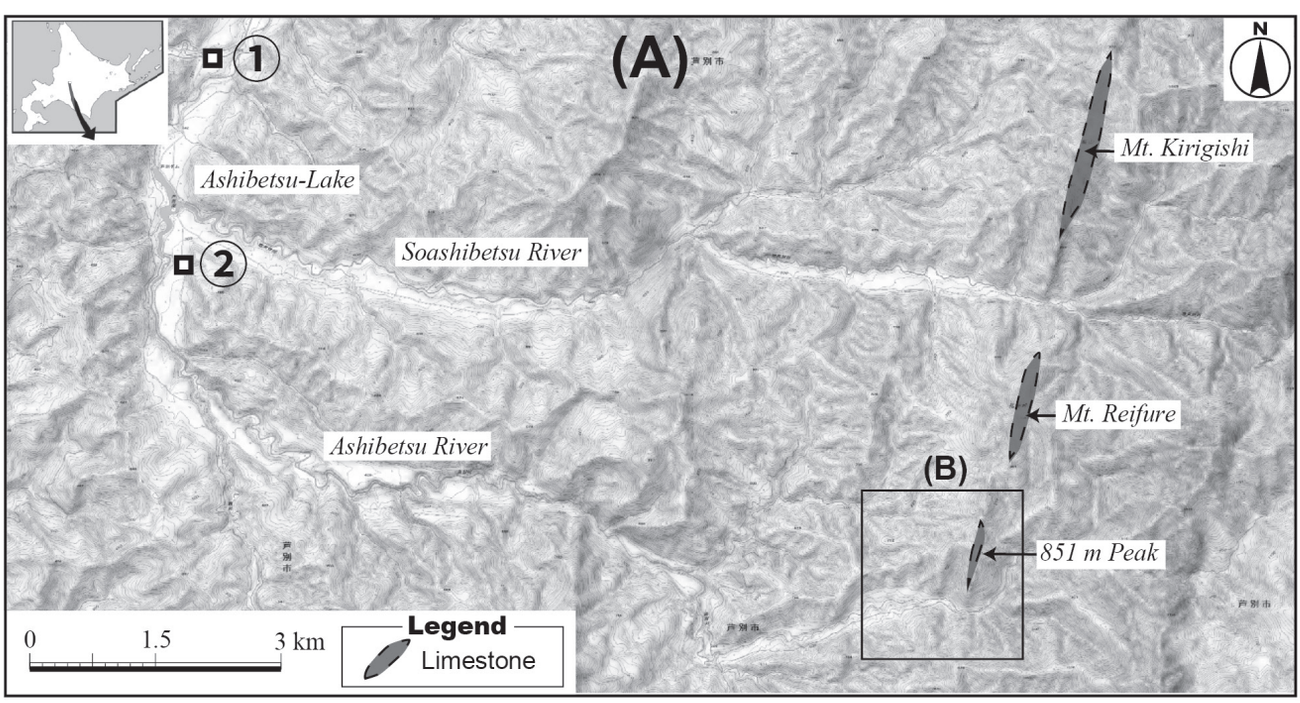

Fig. 1　夕張山地、礼振山周辺の地形図。国土地理院発行の 2.5 万地形図 “幾春別岳” を利用した。数字は文中で言及する地点を表す。石灰岩の分布は高嶋 (2001) を引用した。
Geomorphological map of around Reifure mountain in the Yubari-Sanchi. The topographical map is part of the 1:25,000 map “Ikusyunbetsudake” published by the Geospatial Information Authority of Japan. Numbers indicate locations mentioned in the text. The limestone distribution quoted Takashima (2001).